作　　文

小学校　最優秀賞



「一家だんらんの一時」

浅川小学校　五年　　水原　悠陽　さん

ぼくのお父さんは週六日、仕事で家にいません。お父さんと会える日曜日は大切な日で、家族みんなですごせる日曜日は、僕にとってかけがえのない日です。そして、その日曜日に、家族みんなでお出かけすることが多いです。

ぼくは本が大好きなので、いつもたくさんの本を読んでいて、よく長野図書館へ本を借りに行きます。そこへは家族３人で日曜日に行くことが多く、「家庭の日」として定められている第三日曜日にも行きます。

ぼくは『獣の奏者』や『ウルトラマン』など、いろいろなジャンルの本を借りたり、ＣＤも借ります。

その後は、お母さんのおはなし会を観たりする日もあり、お母さんはいろいろな本や紙しばいを読んでくれます。何度も観たいくらい毎回面白いので、みんなにも観せたいです。ぼくにとって、この時間は楽しい一時です。

お昼は、家族みんなで外食もします。家族みんなでご飯を食べると、いつもよりおいしく感じられます。昼食後は、いろいろなお店に行って買い物をして、みんなで楽しい時間をすごします。こんな日が一家だんらんの日だとぼくは思います。

お母さんは家事と仕事を両立してくれていて、ぼくはいつも感謝しています。料理はみそしる、ご飯、おかず、野菜などおいしいものをたくさん作ってくれます。これを食べながら、お母さんと一緒に会話するのも、とても楽しいです。

それから、お母さんとぼくは、ねる前に仲が良いことを確かめ合います。例えば、昼間におたがい口論になったとします。口論の後、その場でおたがい謝っても、少しわだかまりが残ることがあります。でも、必ずねる前にもう一度仲直りをして、おたがい相手への思いを伝え合い、仲の良い状態でねむりにつきます。だから、次の日の朝を気持ち良くむかえることができます。

仲が良いということは、きずながあることだと思います。また「楽しい」という感情は、明るい毎日に欠かせないものだとも思います。家族みんなでいっしょに楽しいこと、楽しい会話をして「一家だんらん」のときをすごすことはとても大事なことです。ぼくはこれからも大切な家族と、仲良くすごしていきたいと思います。

中学校　最優秀賞



「我が家の日常」

犀陵中学校　二年　内山　結翔 さん

僕の家は、両親と三人の兄弟が暮らす五人家族だ。正直に言うと、我が家は毎日とにかくうるさい。誰かがテレビを見ていれば、別の誰かが喋り、部屋のどこかで常に物音がしている。中学２年になった僕は、そんなガヤガヤした家の中に少し疲れることもあり、自分の部屋で一人、スマホの画面を見ている時間の方がよっぽど気楽で楽しいと思っていた。

この作品のテーマである「家族の日」や「家族がいて楽しかったこと」と言われても、最初はピンとこなかった。しかし、この三カ月、ふとした瞬間に「まあ、このうるささも悪くないか」と思う出来事があった。

ある日の夜、リビングで野球中継が流れていた。最初はみんあスマホをいじったり、まんがを読んだりしてバラバラのことをしていた。しかし、試合が終盤に近づき、同点の緊迫した場面になると、一人、また一人とテレビの前に集まってきた。気がつけば五人全員で画面に食い入るように見つめ、点数が入るたびに「よっしゃ！」と大きな声を上げていた。兄弟でハイタッチをして、親も一緒になってさわいでいる。普段は小言の多い親も、この時ばかりは子供みたいにはしゃいでいた。一人が叫ぶとみんなが釣られて笑う。その部屋の温度が一気に上がったようなガヤガヤ感がなんだか無性に楽しかった。

また、我が家の食卓も毎日戦いだ。大皿のおかずはあっという間に消え

ていくし、たまに兄弟でくだらない口げんかが始まると、親が「うるさい！」という。静かに落ち着いて食べたいと思う反面、みんなで「それ俺の！」「ずるい！」と言い合いながら囲む食卓は、なんだかんだにぎやかで、一人で食べるご飯とは全く違う楽しさがあった。

もし我が家がもっと静かで、みんなが個室にこもりっきりだったら、僕はもっと楽だったかもしれない。一人の時間は自由だし、誰にもじゃまされないからだ。しかし、自分の部屋で一人で動画を見て笑う楽しさと、リビングで五人全員で笑う時の楽しさは全く別物だ。三人の兄弟がいるからこそ、誰かしら面白いことを言うし、親もそれに乗っかってくる。

中学二年になって、少し反抗期のような気むずかしさがある僕でも、このさわがしさの中にいると、自然につられてわらってしまう。五人でいる時の楽しさは、一人では絶対に作り出せないものなのだと、部屋にこもる時間が長くなったからこそ、逆に気づかされた。

僕はこれからも、自分の部屋にこもる時間を一番に優先すると思う。急に家族思いの立派な中学生になるつもりだけど、てれくさいけど、我が家のあの耳が痛くなるほどのうるささと、全員で顔を合わせて笑った瞬間の心地よさは、結構気にいっている。これからも我が家は相変わらずさわがしいままだと思うけど、この何気ない楽しさが、これからもずっと続いていけばいいなと思っている。